

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月6日

【評価実施概要】

事業所番号	4271200554
法人名	社会福祉法人 愛隣会
事業所名	グループホーム はさみ里
所在地	〒859-3726 長崎県東彼杵郡波佐見町稗木場郷798-1 (電話)0956-20-7577

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年10月24日	評価確定日	平成20年11月19日

【情報提供票より】(平成20年9月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 15 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7.9 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		950 円

(4) 利用者の概要(9月 16日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	波佐見病院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

【波佐見焼き】で有名な陶器の町にあるグループホームである。陶器の絵付けをされていた入居者もあり、ホーム内に掲示されている塗り絵作品の色使いや細工には目を見張るものがある。又、生け花の先生をされていた入居者から「花が萎れているものは水切りをしたほうが良かよ」のアドバイスを受けられたり、入居者のこれまでの生活・経験をホーム生活でも継続して支援されている。今年、職員会議時にも内部研修を組み入れられ、事故を想定したロールプレイや事故報告・ヒヤリハット分類表を作成し、分析・検討されサービス提供の向上に反映されていることをお話いただき、前向きな姿勢が窺えた。最後に、今後のホームの指針を【地域を含めた個別性を深める努力】と【あなただったら如何考える】に据えて職員の自己啓発、自己研鑽に反映させたい意向の言葉で締めくくられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善計画シートを作成されており、改善項目に対しての具体的な改善計画内容を挙げられ、実施内容と評価が記載されている。運営推進会議を活かした取り組みでは、2~3ヶ月に1回の開催と参加メンバーの選定(民生委員、地域包括支援センター、入居者の家族、施設長など)をし、9月に4回目を開催されている。会議内容は、直面した問題提起や入居者の入退居状況や行事の報告・予定などで、不参加者には後日、資料の配布などを通して意見の聴取などの取り組みもされている。市町村との連携では、地域の認知症家族の会での「認知症介護の実情について」の講演依頼を受託されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>年間行事予定を把握のもと、7月にユニットごとに全職員で項目をモニタリングされている。新任の職員には、ホーム業務の周知と方向性の把握につながり、現任の職員には、日常の業務の振り返りになり、自己評価の段階でも評価を活かした取り組みをされている。課題を明確に整理した段階で外部評価に臨まれており、向上心と職業意識の高さが窺える。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議では、参加メンバーのそれぞれの視点での活発な意見交換が行われている。会議の不参加メンバーには会議資料に議事録を添えて届けられ、参加できなかったメンバーの意見などの聴取にも尽力されている。また、運営推進会議で出された「職員の名前がわからない」の意見を受けて、フェルト素材のぬいぐるみ風名札を手作りされ、エプロンの左胸紐に着けるなど、ホーム運営に反映させている。素材や装着法も安全に配慮されたものである。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>年に1回、家族等を対象としたホームの満足度把握につながるホーム独自の記述式アンケート調査をされており、回収したアンケートの回答を分析し、検討会議にかけ、業務に反映されている。又、回収したアンケート用紙や分析・会議記録はファイリングし、大切に保管・管理されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居者は、日常の挨拶や民家の畑などの収穫をホーム入居者にも開放した交流支援を受けられており、ホーム近隣の住民と顔馴染みの関係が構築されている。又、入居者の単独の外出などに関しても、地域住民の温かい見守りや声かけと同時にホームへの連絡など、地域住民の協力が住民力の活用がホーム運営に活かされている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に「家庭生活に近づけるように支援します・市民生活を継続します・楽しい雰囲気を作ります・人としての尊厳を重視します・自立と協調を支援します」の5つを謳われており、地域密着型サービスとしての特徴を網羅した揺ぎ無い目標を掲げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に、職員各自が理念に沿ったその日のサービス提供目標を具体的に1つに絞って発表され、実践に繋がられている。又、これまで『はさみ里便り』に、理念を時々記載されていたが、構成内容の見直しをされ、現在、理念と理念に沿ったサービス提供の様子記載で内容の充実を図り、リニューアル版を製作中である。理念を反映した業務運営のアピールで透明性のある広報を目指し、関係者への意識付けにも反映した画期的な取り組みである。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者は、日常の挨拶や民家の畑などの収穫をホーム入居者にも解放した交流支援を受けられており、ホーム近隣の住民と顔馴染みの関係が構築されている。又、入居者の単独の外出などに関しても地域住民の暖かい見守りや声かけと同時にホームへの連絡など地域住民の協力と住民力の活用がホーム運営に活かされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年間行事予定把握の下、7月にユニットごとに全職員で項目をモニタリングされている。新任の職員にとっては、ホーム業務の周知と方向性の把握につながり、現任の職員にとっては日常の業務の振り返りになり、自己評価の段階でも評価を活かした取り組みをされている。又、訪問当日の聞き取りでも熱心にメモを取られたり、課題を明確に整理した段階で外部評価に臨まれており向上心と職業意識の高さが窺える。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、参加メンバーのそれぞれの視点での活発な意見交換が行われている。会議不参加のメンバーには会議資料に議事録を添えて届けられ、意見などの聴取にも尽力されている。また、運営推進会議で出された「職員の名前がわからない」の意見をを受けて、フェルト素材のぬいぐるみ風名札を手作りされ、エプロンの左胸紐に着けるなど、ホーム運営に反映させている。素材や装着法も安全に配慮されたものである。		

グループホーム はさみ里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員から波佐見町の『認知症家族の会』への誘いを受けて管理者が参加された際、入居者の家族も、長崎の家族の実体験を通じた講演を聴きに参加されており、その家族の要望で、『認知症家族の会』で『認知症介護の実情について』管理者が講演される運びとなり、講演内容についての準備に取り組まれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事の様子など記載された「たより」の配布や面会時に入居者の日常の生活ぶりや健康状態など伝えられているが、入居者の状況に応じて、入居者に同行した自宅・家族訪問や入居者と家族の電話連絡支援なども取り入れられている。家族との継続した関係を大事にされており、職員はあくまでパイプ役に努められている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回、家族等を対象としたホーム満足度把握に繋がるホーム独自の記述式アンケート調査をされており、回収したアンケートの回答を分析し、検討会議にかけ業務に反映されている。又、回収されたアンケート用紙や分析、会議録はファイリングし大切に保管・管理されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員二人で一人の入居者を担当されており、異動や離職があっても可能な限り、馴染みの職員の面会支援などで関係を断ち切らないよう努められている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して、外部研修受講は1人1研修制度を取り入れられている。内部研修に関しては職員研修実績票を作成され、研修内容の浸透と反映を図られている。又、入居者担当職員によるケア会議情報提供用紙の9項目(食事、排泄、清潔、移動動作、衣服着脱、精神活動、視力・聴力、健康・医療、服薬管理)作成で職員の観察力、ケアの視点の育成なども図られている。職員の資格取得への協力体制と奨励金制度は、資格取得への意欲の増強にも繋がっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の相談役を担われることもあり、他のグループホーム職員の訪問を受けられたり、介護や介護計画についての相談などを受けられているが、その中でも学びの場面を見つげられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>職員による最低1回の入居前訪問又は、面会で顔なじみの関係作りに努められ、入居されてからは、本人のこれまでの馴染みの関係を断ち切らない継続した環境支援を心がけられている。これまでに「ここに入らない」と言って帰られた事例はないと自負されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者、職員というより共同生活者としての生活環境作りをされており、支えあい、協力しながら対等性の確保に努められている。理念の1つである「自立と協調を支援します」は、【口を出さない、手を出さない、目を離さない】をスローガンに日々の業務に反映されている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員が傍について会話を楽しみながらの入居者による食事介助や見守りなど、ピア介護から見えてくる本人達の内面や能力など、自然と湧き出てくる環境を大事に見守り支援されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居当初から、家族もケア会議に参加されており、初期は1ヶ月以内の期間設定で計画の妥当性、方向性を汲み取られ、予測のつくものは、その段階で対策を取られている。又、課題収集のためのホーム独自の利用者情報シートとケア会議用情報提供用紙の作成で、その人らしさを求めたケアプランの作成に努められている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>担当職員二人によるケア会議用情報提供用紙の観察・実践記録を基に、入居者・家族の意見も取り入れて3ヶ月に1回又は変化時に随時の評価・見直しをされている。平均して1ヶ月に8人のケア検討をされている。介護現場で困窮されるのは、職員の能力の限界と入居者の安全・安定のバランスを考慮した他のサービスへの移行判断のタイミングで、最終的には共同生活の可否の見極めに委ねられるところが大きい。</p>		

グループホーム はさみ里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理念の1つに「市民生活を継続します」を掲げられており、入居者のこれまでの社会性を大事にされ、クラブ活動や冠婚葬祭などへの参加・列席など在宅時と同じように支援されている。又、下校時の子供たちにとっては、トイレ利用や怪我の手当て、お茶の補給など気軽な立ち寄り所として柔軟な対応をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関は協力病院でもあるが、本人・家族の希望で2人の入居者は長年のかかりつけ医を受診されている。職員同行受診の時、投薬などに変化があれば随時、家族に報告をされている。又、専門科受診などで入院が予想されるときは、事前に希望の病院などを尋ねられ、本人・家族が安心して適切な医療を受けられるように支援されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに看取りのケアを経験されたことはないが、看取り介護ケアのマニュアルは作成されている。又、家族の切望があれば対応の準備はできているが、共同生活の中での看取り介護は、「家族の理解・協力と医療機関との連携が必須である」事を噛み締めるように話され、命の重さを伝えられた。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念の1つに「人としての尊厳を重視します」を掲げられており、入居者が言われたくないことやして欲しくないこと、また、羞恥心にも最善の注意を払い、受容や傾聴の姿勢に努められている。声かけ時は、環境や雰囲気や壊さないよう本人とその周りの人へも配慮・工夫されている。又、記録物などは特定の場所に保管・管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的ホーム生活パターンの中に、入居者のその日の気分や状態が発揮できるような環境づくりをされている。リビングには趣味や特技などに繋がるカルタやお手玉、歌本などの備品が、入居者の視野の範囲に準備されており、訪問した日の昼食後は、自発的又は、声かけ誘導で口腔ケアした後、趣味の塗り絵をされる人、花の水切りをされる人、塵入れ折をされる人、居室で寛がれる人など自分の時間を楽しめている。		

グループホーム はさみ里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問した日の昼食風景は、入居者の状態に応じたテーブル設定ではあるが、入居者と職員が同じ食事を会話を交えながら和やかに食されている。食生活の中に入居者の活躍の場面作りがされており、献立表を見ながらホワイトボードへの次の食事の献立書きや、食事の後片付けなど生活の流れに溶け込んだ様子は、ホーム全体に共同生活者としての雰囲気溢れていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の入浴支援に、「鼻歌を歌いながら、ゆったりと寛いだ自宅入浴気分を提供したい」気持ちがあり、入浴剤の使用で心のリフレッシュを図ると同時に、言語や身体機能のリハビリも兼ね、更に本人の満足に繋がる支援を心がけられている。リビングの手作りカレンダーの横に「本日、入浴日です」の掛札で、入居者への意識付けに繋がっており、入居者によっては、入浴準備を自分でされ、仲の良い人と一緒に入浴を楽しまれることもある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	波佐見焼きの産地と言う土地柄もあり、焼き物の絵付けなどの仕事で熟練された絵筆技術や色彩感覚を写経や塗り絵などに活かされており、完成した作品はリビングに掲示されている。訪問した日も、色鉛筆塗りの作品を見ながら「東海道五十三次、藤娘・どれも素晴らしく、立体感溢れる作品ですね」と、職員と話している傍らの、入居者の全身から漲る自信と屈託のない笑顔が作業の楽しさを物語っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の自立歩行に向けた補助具の活用で、現在、入居されている方の車椅子利用は、18人中1人という好条件の基、気候の良い晴天の日は外でおやつを楽しまれたり、ミニゲートボールに興じたり、地域の老人会活動に参加されたりと外出の頻度を増やす取り組みに努められている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、勝手口への日中の施錠はされていないが、外出把握のためにチャイム音を異にしたセンサーの設置で、外出を確認され安心・安全に繋がられている。又、近隣住民や関連施設には単独外出に対する見守り・通報の協力要請をされており、協力をいただいている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	週に1回、朝のミーティング時に火災を中心としたシュミレーション訓練の一環で手順を口頭で確認されている。又、地区別に行政が作成している『土砂災害危険区域図』をラミネート加工して、事務所の入居室配置表示板の傍に設置されており、災害時の避難経路の目安にされている。又、備蓄に関しては、災害時のみでなく、新型インフルエンザなどの感染症対策としても意識を新たにされている。		

グループホーム はさみ里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、カロリー計算などされた管理栄養士作成の献立表を基に、入居者の状態・能力に応じた形態で食事提供されている。入居者の摂取内容、量について大まかなカロリーを把握している。また、検査データにより、制限が必要な状態、補食が必要な状態については、全職員が理解し、対応している。	○	今後は、更なるステップアップとして、摂取栄養バランスについて、不足分の代替となる食物を勧めたり、食べてもらうように工夫するなど、日々の生活の中で全職員が知識を持ち、健康管理を行うことを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、全体的に落ち着いた雰囲気があり、装飾や調度品も家庭的なものや食器展示場的な和の工夫がされており、波佐見焼きの町で生活した入居者に合致した環境づくりである。又、天然素材のポプリを要所に配置され、アロマ効果で癒しの提供もされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、それぞれに個性が感じられ、家族写真をベッドの頭部に飾られていたり、愛犬の写真を大きく引き伸ばしたのを居室入り口正面に張られ、リビングからも見えるようにされていたり、居室でも趣味の塗り絵や写経ができるように作業机と道具が配置されているなど、本人にとって落ち着ける場所であると同時に自分らしさの発揮できる場所であることが窺える。		